

「外国人受入れと社会統合に関する国際シンポジウム」を終えて

1. 概要

2月28日、名古屋市のウィルあいちにおいて、「外国人受入れと社会統合に関する国際シンポジウム」を開催しました。同シンポジウムは、内外における外国人受入れの現状と課題を分析し、今後のわが国の外国人の受入れの在り方について活発な議論を行うことを目的として、平成16年度から開催しているもので、今回が5回目の開催となります。第1回目から第3回目までは、都内において開催しましたが、第4回目となる昨年からは、外国人問題の現場である地方自治体において開催しています。

今回のシンポジウムでは、橋本外務副大臣、的井愛知県地域振興部長（神田知事の代理）、スウィングIOM事務局長による開会の辞が行われた後、奥田経団連名誉会長による特別講演、海外の有識者及び実務者、国内有識者、関係省庁、日系ブラジル人による報告、パネル討論及び来場者との質疑応答が行われました。今回のシンポジウムには、過去最大規模である約550名の参加があり、愛知県住民の問題意識の高さが窺えました。

2. 報告内容

外国人受入れに関する国としての基本方針やビジョンについて検討した第1セッションでは、①外国人受入れを短期的な景気の調節弁として位置づけるのではなく、社会に根を下ろした生活者、定住者の問題として捉える必要がある、②緊急避難的な政策だけでなく、長期的な社会統合政策を考える必要がある、③多文化共生政策拡充のため、制度の整備を進める必要がある等一の報告がありました。



外国人の社会統合の具体的取組みのあり方について検討した第2セッションでは、同セッションのモデレーターより、①日本では、日本人が中心になって外国人問題を考えているが、今後は、外国人も参加しつつ、多文化共生社会作りを進めていく必要がある、②オーストラリアのニューサウスウェールズ州では、差別を禁止する法律と多文化主義を推進する法律が二本柱になっているとの報告があったが、日本においてもこれらの法律策定を行う機が熟したと見ている一との総括がありました。

また、会場からは、各講師の報告内容及びパネル討論内容に対して多くの質問が寄せられました。時間の関係上、シンポジウム当日に回答することができなかった質問の一部については、後日、外務省のHPで紹介する予定です。

3. シンポジウム関連のイベント

シンポジウムの前日には、同シンポジウムのパネリスト及びモデレーターが外国人集住都市である豊田市を訪問し、外国人向けのハローワーク事業を行っている豊田市役所、全校生徒の半数以上が外国人生徒である西保見小学校、日系ブラジル人の学習支援に取り組むNPO法人こどもの国、ブラジル人学校（EAS豊田校）を視察しました。

また、シンポジウム当日の昼食時には、会場の参加者を対象に、前回のシンポジウムの開催地である静岡県（浜松市）における企業内日本語教室を取り上げたDVD及び今回のシンポジウムの開催地である愛知県の多文化共生推進活動に関するDVDを放映しました。

一方、シンポジウム会場には、前回のシンポジウムに引き続き、出展ブースを設け、関係省庁、自治体、NPO等から寄せられた活動についてのパネルや広報チラシを展示しました。

また、シンポジウム終了後には、シンポジウム出席者及び外国人問題関係者の意見交換、連携の促進を目的とした懇親会を開催しました。同懇親会は、シンポジウム参加者のうち百数十名の方にご出席いただき、大変盛況でした。



《出展ブース》



《懇親会》

4. まとめ

アンケートでは、「今回のシンポジウムで取り上げられたような海外の事例を日本の外国人受入れ政策に活かすべき」との意見が多く見られたほか、「もっと地域に根ざした活動を紹介すべき」とする意見もありました。

これらの意見も踏まえ、来年度は、内外の先進的事例やグッドプラクティスの地域への普及、地域におけるケースワーカーの養成、外国人問題関係者の連携に焦点をあて、これまでのシンポジウム等の議論をより具体的、かつ、実践的に、そして、地域への適用に配慮した形で開催したいと考えています。

なお、シンポジウムにおける配布資料及びプレゼンテーション資料につきましては、IOM（国際移住機関）のHPに掲載しています。

また、今回のシンポジウムの詳細については、後日、インターネット上のYouTubeに掲載する予定ですので、「外国人受入れと社会統合に関する国際シンポジウム」というキーワードで検索の上、ご覧ください。